

あすなろ

み~つけた!



第47本目

阿部 智子さん(34歳)
バイオリン教室 主宰(山谷町3)



「バイオリンとの出会いは?」
五歳の時、交差点で偶然バイオリンケースを持って歩く子どもを見掛けたんです。母から「やってみる?」と聞かれ、「うん!」と答えたのが習うきっかけでした。
「小さなころの夢は、やはりバイオリンでしたか?」
いいえ(笑)。習い始めも遅く、練習の仕方も全く甘かったです。小学四年生のころ、周りの子どもとのレベルの差を埋めようと基礎に戻って一生懸命練習しましたが、バイオリンが夢というわけではありませんでした。先生から

「やるでもない、(でも)やめるでもない子だね」と言われていました。それでも、阿部さんを引き付け続けた「バイオリンの魅力」とは? 「音色」ですね。大学生のころは、「自分で作ったバイオリンで音を出したい!」という思い付きから、客として訪れた楽器店に頼み込んで、バイオリンを作らせてもらいました。音が出るまでに仕上げた一本は今も大切にしています。最近、趣味で能面も作っています(笑)。「バイオリンが上達する人」とは? 何分でもいいから、毎日同じ訓練ができる人ですね。繰り返しが大切なので、ある意味、筋力トレーニングに近いかも知れません。教室で教えるだけでなく、演奏活動も好評です。頼まれて演奏の場をいただくことが多いのですが、中でも大学時代の仲間や恩師とのアンサンブル(四重奏)が一番好きです。この楽しさを教えてもらったおかげで、今まで続けてこられたと思います。阿部さんにとって「バイオリンを教えること」とは? バイオリンを教えるには、茶道や書道にあるような「免状」が必要なので、「私でいいのだからか?」と悩んだこともありましたが、でも、バイオリンが好きで、上手に弾きたいけど弾けないという人と一緒に考えて考え、力になることで、その人にも私にも何か得るものがあれば...と考えています。

新・新潟市に胸を躍らせ 花き産業の将来を熱く討論



平成16年12月14日、小合地区コミュニティセンターで新潟県花木振興協議会*主催によるパネルディスカッション「新・新潟市における花き産業の展望」が開かれました。パネリストの新潟市長や同協議会の新潟市、白根市、小須戸町の首長らと生産者の代表は、集まった生産者約100名を前に国際化に、向けた産地のあり方や将来展望について熱く語り合っていました。

被災地に安らぎを 地域特産の花が届けられました

平成16年12月24日、新潟県中越大地震で被災し仮設住宅での生活を余儀なくされている方々に、少しでも心を和ませてもらおうと、新潟県花木振興協議会*から丹精込めて作った鉢花がプレゼントされました。

アザレアなど約2,600鉢が、同協議会の会長(新潟市長)と花木生産者ら約50名によって励ましの声とともに一軒一軒届けられ、受け取った多くの皆さんから喜ばれていました。



新潟県花木振興協議会...花き花木産地である新潟市、白根市、小須戸町の生産者および行政、農業団体が構成する組織

地元婦人会が子どもたちに 手作り人形をX'マスプレゼント



平成16年12月24日、新金沢町婦人会から新金沢保育所の子どもたちに、手作り人形やままごとに使う布団などが贈られました。

同婦人会では寄付を数年前からたびたび行っており、子どもたちにどんなものが喜ばれるのか悩みながらも、和気あいあいと楽しんで作っているとのこと。

そんな思いが詰まった人形を普段着姿のサンタさんからもらった子どもたちは、おんぶしたり、布団に寝かせたりと思い思いに笑顔で遊んでいました。

自治宝くじ助成金で 利用しやすい公会堂に変身

飯柳公会堂に自治宝くじの助成金である「コミュニティ助成事業」*の助成を受けて購入した畳やステージ、テレビ、エアコンなどの備品が設置されました。

これは、飯柳自治会が先に新築した公会堂の設備の充実を図って住民相互の交流を活発にしようと呼びかけたもので、「大変立派になって、来るのが楽しみになった」といった利用者の声も聞かれるなど、今後のコミュニティ活動の展開が期待されます。

コミュニティ助成事業では、(財)自治総合センターが自治宝くじの普及・広報を行うとともに、コミュニティの健全な発展を図ることを目的に助成を行っています。



宝くじは
縁の下の
チカラ持ち。
宝くじは、広く社会に普及されています。

備品に付けられる自治宝くじのコミュニティマーク

「ヒカヒカの公会堂で行われた」に「に健康クラブ」の様子

カメラスケッチ

多彩なアートが待っています



総合芸術空間

新津市美術館

- ところ 新潟県新潟市蒲ヶ沢 花と遺跡のふるさと公園内
- 開館時間 午前10時~午後5時(入場は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)および年末年始
- 問い合わせ ☎0250-25-1301

新津の「今」を伝えます

新津市内の各世帯に配布されている『広報にいつ』では、この欄に市内業者などの広告を掲載していますが、インターネット版『広報にいつ(PDFファイル)』では市からのお知らせなどを載せています。